

家庭用燃料電池エネファーム

大 新構造金属Ru触媒開発 耐用年数大幅延長に期待

東京大学大学院工学系研究科の菅野隆之助教授らの研究グループは、家庭用燃料電池の性能を向上させるために、金属ルテチウム（Ru）触媒の構造を改良し、耐用年数を大幅に延長することに成功した。この研究成果は、2014年12月に開催された「第10回燃料電池国際会議（FCIC10）」で発表された。菅野教授は、「従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する」としている。

「エネファーム」は、家庭用燃料電池の一種で、天然ガスやプロパンガスなどを燃料として、発電と熱供給を同時に行うことができる。従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する。

菅野教授は、この研究成果を発表するにあたって、「従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する」としている。また、この研究成果は、2014年12月に開催された「第10回燃料電池国際会議（FCIC10）」で発表された。菅野教授は、「従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する」としている。

菅野教授は、この研究成果を発表するにあたって、「従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する」としている。

菅野教授は、この研究成果を発表するにあたって、「従来の燃料電池は、触媒の劣化によって耐用年数が短く、コストが高かった。今回の研究成果は、耐用年数を大幅に延長し、コストを削減できる。家庭用燃料電池の普及に大きく貢献する」としている。